# 第２章　うるま市観光のこれからの取り組み課題

本ビジョン（令和５（2023）年度～令和９（2027）年度）におけるうるま市の観光が抱える取り組み状況や、近年のうるま市の観光の実態や整備状況等を踏まえ、さらなる観光振興の実現に向けて、今後の取り組むべき５つの課題を抽出しました。

| ■観光資源のブランディング、プロモーションの展開 |
|---|
| ・うるま市内には、「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」など認知度が高い資源がありますが、その資源を活用したプロモーションの統一イメージが明確に定められておらず、県外観光客からの認知度は、他の自治体よりも低いことが想定されます。<br>・うるま市観光のブランディングとして、知名度の高い「海中道路から島しょ地域」、「世界遺産勝連城跡」を中心としたさらなる「ブランド」化を図るとととともに、プロモーションの全体コンセプトの検討や、観光誘客のターゲットを想定したメディア広報を図っていく必要があります。 |
| **■豊かな自然など、有形・無形の地域資源の利活用と保全** |
| ・世界遺産勝連城跡、闘牛、エイサー、獅子舞、ハーリー、肝高の阿麻和利などの独自の文化や歴史、海中道路や島しょ地域における景観、もずく等の食といった有形・無形の地域資源が多くありますが、特性を活かした利活用や、保全が課題です。<br>・これら有形・無形の地域資源（ソフトパワー）の効果的な保全や、市民・市外からの観光客に対する体験型観光の提供や商品化を図ることにより、域内観光の消費を生み出すことや、伝統文化の保全の人材育成、シビックプライドの醸成を図ることが重要です。 |
| **■まちなみづくりと公民連携による観光拠点の機能強化** |
| ・うるま市は豊かな自然や景観が魅力ですが、街路樹や道路の舗装、沿道看板の整備が課題です。観光客の再来訪意欲の向上のために自然景観や景観資源、沖縄らしいまちなみの継続的な保全・整備の推進が重要です。<br>・前ビジョン策定後、東照間商業等施設（TERUMA）、あまわりパーク、うるマルシェなどの観光拠点が整備されてきました。<br>・今後も勝連城跡周辺、あやはし館・ロードパーク、石川 IC 周辺などの整備を進めることで観光拠点の機能強化による魅力創出が重要です。 |

## ■滞在型観光の推進による観光客数の拡大・消費単価の向上

- うるま市内には、丘陵地から半島、平地、湾、島しょ地域など、多様で独特な地形や景観が凝縮しており、農業や水産業と連携した各種体験プログラム等が展開されています。また、近年では、スポーツ振興として、スポーツコンベンションの推進、サイクルツーリズム（東海岸、島しょ地域）の推進も展開しています。
- 来訪観光客の半数程度が、地域の景観や文化に触れあう旅行で訪れており、通過型の形態の観光が見受けられることから、滞在型観光の推進が重要な課題と考えます。上記の滞在型観光のプログラムの展開、東海岸魅力強化としてのサンライズ観光の推進、ワーケーションなど新たな観点での観光促進を図りながら、立ち寄り客の長時間滞在、宿泊者向けの体験プログラムの充実が重要です。

## ■関係者間の連携、受入体制の整備、市内各地域やセグメント別の観光テーマの設定

- 前ビジョン策定後、観光部局が中心となりながら、庁内の各課や観光関連団体（観光物産協会、商工会）が連携して施策を進めていくことが重要です。
- うるま市内においての観光振興の現状や課題、方針等も地域別で異なることが想定されます。
- そのため、庁内観光部局と観光物産協会が連携を図りながら、観光振興の方向性や受入体制の整備を図るとともに、地域の歴史・文化などによる観光のゾーニングを図りながら、各地域のテーマ設定を行い、観光振興ビジョンの施策を検討することが重要です。
- また、併せてセグメント別の特性を把握していくことが重要です。